

教科目名 歴史学特論 I (Special Lecture on history I)

専攻名・学年 : 全専攻 1 年 (教育プログラム 第 3 学年 ◎科目)

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 田中美穂

授業の概要			
前近代のヨーロッパ世界について講義する。中世を中心に、教会や修道院といった聖なる空間、および王や貴族、都市の住人や農民たちが暮らす世俗社会について、毎回テーマを決めて取り上げる。前近代ヨーロッパをめぐるさまざまな事件、教会・修道院・城などをあつかった映像資料なども紹介しつつ、授業を進めていきたい。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (A1), JABEE 目標 (a)	
(1) 欧米の歴史や文化を学ぶ上で欠くことのできないキリスト教全般に関して知識を得る。(定期試験)			
(2) 現在の世界にも継承されている中世ヨーロッパのさまざまな文化や芸術について知識を得る。(定期試験)			
(3) 講義内容から選んだ歴史的なテーマについて考え、論述する力を身につける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	古代オリエント	○キリスト教に関する基本的な事柄が理解できる。 ○古代から中世ヨーロッパの歴史の流れが理解できる。 ○中世ヨーロッパ世界とキリスト教との関わりについて理解できる。	【理解の度合い】
2	古代ギリシア		
3	ローマ帝国とキリスト教(1)		
4	ローマ帝国とキリスト教(2)		
5	キリスト教世界の拡大		
6	巡礼の道		
7	十字軍(1)		
8	十字軍(2)	○キリスト教を基盤とした中世ヨーロッパの文化や芸術について理解できる。 ○中世ヨーロッパ社会のしくみについて理解できる。 ○中世ヨーロッパの世俗社会について理解できる。 ○中世から近代への歴史の移行について理解できる。	【理解の度合い】
9	修道院の生活		
10	中世の国々と都市		
11	騎士の世界		
12	中世の芸術と文化		
13	中世から近代へ		
14	市民革命とナショナリズム		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意		講義中に話す内容について、各自でしっかりノートまとめをすること。	【総合達成度】
教科書		毎回レジュメや資料を提供する。	
参考図書		毎回授業で紹介する。	
自学上の注意		古代から近代まで世界史のヨーロッパの部分の復習しておくこと。	
関連科目		世界史, 歴史学概説, 歴史学特論 II (専攻科)	
総合評価		1 回の欠席につき 2 点を減点する。試験の点数から欠席回数×2 点を減点して総合評価を出す。ただし、病気など特別な理由で欠席した場合は、申し出れば減点対象とはしない。総合評価 60 点以上が合格。試験の点数が 40 点以上 60 点未満の者には再試験を行うことがある。この場合の実施方法、条件などは授業において明示する。	【総合評価】 点